

「静岡県学校教育情報化推進計画」の概要

1(1) 趣 旨	教育 DX ロードマップをはじめとした国の将来ビジョンを念頭におきながら、その基盤整備として短期的に取り組むべき事項を整理する。
1(2) 位置付け	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育の情報化の推進に関する法律に基づき、本県の区域における学校教育の情報化の推進に関する施策を総合的・計画的に実施するための計画 本県の学校教育の情報化の推進の施策の方向性を示し、市町計画の参考となるもの
1(3) 期 間	令和8年度から令和10年度までの3年間

2 国の考え方・方向性	<ul style="list-style-type: none"> (1) 学習の基盤となる資質能力として情報活用能力を位置付け (2) 情報活用能力の小中高を通じた育成体系の明確化 (3) デジタル学習基盤を前提とした学びの実現 (4) リスクを正しく理解した上で、生成AIを効果的に活用 (5) 「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも自分らしく学べる社会」の実現
--------------------	--

3 本県の現状・課題

(1) 児童生徒の資質・能力

- 教育活動へのICT活用は、児童生徒の資質・能力の育成に繋がる可能性を秘めているものの、漫然とICT機器を使用するだけでは、必ずしも資質・能力の育成に繋がらない
- 探究的な学びとの連携や先端技術(生成AIを含む)の活用による情報活用能力の向上に有効なICTの活用事例がまだ少ない

(2) 教員のICT活用指導力

- 児童生徒がICTを活用するための、新しい情報技術への対応を含む教員の指導力向上が引き続きの課題
- 機器の操作方法の習得、トラブル対応、授業での活用方法の検討などにより教員の負担増

(3) ICTの環境整備

- 1人1台端末や普通教室の無線LAN等の環境は確実に整備されてきているが、より安定した通信環境が不可欠
- 各種データが別々のシステムで管理されることによる、データの分断とコストの増加

(4) 学校における働き方改革と組織・体制

- 給特法による業務量管理と健康確保措置の徹底(実効性のある業務改善の提言)
- ICTを活用しながら校務の効率化を行っているものの、時間外在校等時間が長い教員の割合は未だ高く、校務DXによる更なる業務効率化が急務

4 基本方針

(2)ア ICTを活用した児童生徒の資質・能力の育成

- 多様なICTツールの導入による個人の進捗状況や理解度に応じた学習の支援の実現
- 多様なリソースへのアクセスによる探究的な学びの支援
- 生成AI等先端技術の適切な取扱いや特性への理解

(2)イ 教員のICT活用指導力の向上と人材の確保

- ICTを活用する目的を持ち、デジタルとアナログのバランスのとれた授業を行うスキルの育成
- 生成AIをはじめとした日々進化するICT技術に対応するため、研修やサポート体制構築による教員の継続的なスキルアップと情報リテラシーの向上
- ICTに関する専門知識を有する者による教員への継続的な支援

(2)ウ ICTを活用するための環境の整備

- ネットワーク環境の改善
- 汎用クラウドサービスの更なる活用
- 次世代校務支援システムに対応した基盤の検討(データ利活用、セキュリティ等)

(2)エ 教職員と児童生徒のウェルビーイングを実現するICTの活用と推進

- 校務DXによる更なる校務効率化の推進
- 遠隔教育や先端技術の活用による、誰一人取り残さない多様な学習機会の確保
- 児童生徒と教職員の情報アクセシビリティの向上
- 市町との情報共有及び情報交換による連携強化

4(3) 目標値

指標名	目標値 (R10年度)	現状値 (R6年度)
学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うと答える児童生徒の割合	100%	小 94.2% 中 95.5% 高 94.3% 特 92.7%
自分で調べる場面で、ICT機器を週3日以上使用させている学校の割合	100%	小 74.7% 中 79.0% 高 - 特 -
自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、ICT機器を週3日以上使用させている学校の割合	100%	小 55.4% 中 60.0% 高 - 特 -
情報モラルに関する教育活動を実施した学校の割合	100%	小 99.3% 中 100% 高 99.1% 特 90.0%

指標名	目標値 (R10年度)	現状値 (R6年度)
授業中にICTを活用して習熟度別学習や協働学習など専門的な指導ができる教員の割合	100%	82.4%
情報活用の基盤となる知識や態度について指導できる教員の割合	100%	89.7%
ICT活用に係る研修を受講した教員の割合	100%	77.7%
授業で生成AIを活用する県立高校の割合	20%	-

指標名	目標値 (R10年度)	現状値 (R6年度)
必要なネットワーク速度が確保できている県立学校の割合	77.7%	33.1%
次世代の校務支援システムの導入を予定する自治体	100%	-
学校教育情報セキュリティ監査の全県立学校での実施(3年間)	100%	-

指標名	目標値 (R10年度)	現状値 (R6年度)
時間外在校等時間が月当たり45時間を超える教員の割合	0%	小 27.6% 中 44.0% 高 32.3% 特 5.4%
校務の分類・整理及び見直しにおいて、ICTを有効活用した授業改善や校務の効率化に取り組んだ学校の割合	100%	小 93.6% 中 92.1% 高 94.5% 特 82.5%
希望する児童生徒がいた場合に、遠隔教育(オンライン授業や映像配信など)を実施できる体制を整えている学校の割合	100%	-
半分以上の教員が生成AIを校務で活用する県立学校の割合	100%	-

5 基本方針に基づく取組

(1)ア 情報技術を活用する能力の育成

- ICTを活用した探究的な学びや教科横断的な学びの充実
- 教育データの利活用に向けた取組の充実
- 高校生のデジタル人材育成
- 多様な学習ツールの活用

(1)イ 情報技術の適切な取扱いができる能力の育成

- 情報モラル教育を通じたメディアリテラシーやセキュリティへの理解の向上
- 県警等と連携した取組

(1)ウ 情報技術の特性の理解の向上

- 教育活動で生成AI等の先端技術を活用することによる理解の向上
- 生成AIの危険性、問題点などについての指導

(2)ア 教員のICT活用指導力の向上

- ICT活用指導力の向上を図るための教員研修の実施
- スクールDX推進チームを核とした先進技術の活用推進
- 県立高校におけるデジタル教材の活用

(2)イ ICT運用サポートによる学校現場支援

- GIGAスクール運営支援センター等の運用による継続的な支援
- 県立学校及び市町教育委員会の要請に応じた研修の実施

(3)ア 1人1台端末の安定した通信環境等の確保

- ネットワークアセスメントを踏まえた適切な通信環境の構築

(3)イ 教育データの標準化・相互運用

- 次世代校務支援システムの検討
- 公立高校入学者選抜における志願及び入学手続のデジタル化

(3)ウ 情報セキュリティ対策の徹底

- より安全性の高いセキュリティ対策の実現
- 学校のセキュリティレベルの高度化支援

(4)ア ICTの校務効率化への活用を通じた教職員の負担軽減

- ICTを活用した校務効率化の支援
- 次世代校務支援システム導入によるシステムの最適化
- 公立高校入学者選抜におけるデジタル採点システムの全県立高校での活用

(4)イ 誰一人取り残さない学びのためのICT活用の推進

- AIアシストツールの活用
- 遠隔教育やオンライン授業等の実施

(4)ウ 市町との連携の推進

- 次世代校務支援システムの共同調達等市町と連携した会議体の運営